

和枝のお願い浣腸

和枝が夕食の用意をしていると。ピンポンが鳴り、玄関に出迎えると旦那さまのお帰りです。

主人のカバンを受け取って、お帰りなさいのキスをする、その汗ばんだ身体から主人の男の匂いがして、お帰りを待つていた妻に辛せを感じさせます。

「あなた、お帰りなさい！ ご飯もうすぐよ！ お風呂に入つてさっぱりしてきて、おビール冷えてるわ！」

「和枝！ 一緒に入ろうよ？ お前も食事前にさっぱりしたらどうだ？」

「はい！ 直ぐ行きます。先に入つていて！」

和枝は食卓の用意を手早くして、お風呂に向かいました。

四十路に入り肥えてきた身体がこのところ恥ずかしく感じています。

お風呂場に入ると、主人が待ち構えていて抱きしめられてキッスされ、まだ汗をかいたままのおっぱいを掴まれて、乳首を吸われてしまいました。

「アアッ！ やめて！ ちよつとお湯かけて洗つてから！ 汗かいてるの！ 待つて！」

主人は構わずに和枝のお股に手を入れてきます。

「アン！ まだそこ汚れてるの！ ちよつと洗わせて！ 恥ずかしいから待つて！ アアン！」
クチュクチュと主人にいじられる隠微な音が聞こえてきます。

「アアッ！ ダメ！ 恥ずかしいわ！ ほんとにエッチ！ もう！ はやく入りましょう！」

主人はお湯に入つてからも、あちこちと悪戯してきます。

おっぱいやお股を触つた後で、お尻を弄つてきました。

本当にエッチでしょうがない主人です。

「アアッ！ そこダメよ、触っちゃッ！ お便秘なのに！ アアアッ！ ウウン！」

「ブクッ！」 和枝の開けられた肛門からは、くぐもつた音で便秘のガスの輪が浮き上がり、便秘便の匂いが風

呂場に漂いました。

「アアン！ ごめんなさい！ こんな匂い！ 恥ずかしい！ あなた！
今週お通じなくてお腹膨らんでるでしょう！」

主人にお腹を押されると、またブクブクとガスに泡が出てしまいました。

「アアン、恥ずかしい！ もうダメ！ そんなことしちゃ！」

あなた！ 後でお部屋でお浣腸してくださいねッ！ 用意しておきますから…！」

和枝は先にお風呂を上がり、食事の用意をして主人を待ちます。

主人は浴衣に着替えて食卓に座りました。

お互にビールを注いでお疲れ様の乾杯をして食事になりました。

寝室浣腸

主人が寝室に入った後、和枝は食事の後片づけをしてトイレに入り、お股とお尻を洗浄してお浣腸の準備をし、匂い対策にオーデコロンをつけて主人が待つ寝室に向かいました。

主人はベッドにバスタオルを敷いて待っていました。

サイドテーブルには、和枝が用意した50ccの硝子の浣腸器とワセリン、50%グリセリン浣腸液、脱脂綿や綿棒、珪瑯の差込便器が置かれています。

和枝はベッドで待つ主人を見て、これからお浣腸されると思うと羞恥心で赤くなり、お股を擦り合わせるようにしてベッドに向かいました。

主人の前でパンティを脱ぎ、バスタオルの上に寝て両脚を抱え、お股を上げて開きました。

女の隠部の全てが丸見えの姿勢です。

主人は抱えた脚を大きく開き、肛門が上を向くように腰に枕を当てがったのです。

「あなたッ！ アアッ！ 恥ずかしい！ 早くお浣腸してくださいーッ！ ハヤク！ お…かん…ち…よ…う！」

和枝は枕の上で肛門を上に向け、お浣腸の催促をして鳴いています。

よく見ると陰唇から女蜜が滲み出て、滴りが肛門を濡らしているのです。

主人は、指で陰唇を分けて蜜を掬い取り、和枝を恥ずかしがらせませす。

「お前！ もう、こんなに濡らしてるよ！ これじゃワセリン要らないようだなッ？」

「アアン！ あなた！ そんな悪戯して！ 早くッお浣腸してくださいッ！ アアッ！」

主人は膣液で濡れた肛門に、たっぷりのワセリンを塗り込み、硝子製の浣腸器の嘴をスルツと和枝の肛門に差し込み、ゆつくりと内筒を押して注腸を始めました。

「アアン！ あなたッ！ アアッ！ ダメッ！ ウウンッ！」

和枝は直腸に入る浣腸液を感じて肛門をキョツと閉め、硝子の浣腸器の嘴管を深く啜え、目を瞑って注腸させています。

浣腸器が抜かれてはまた、薬液を吸いあげて肛門に差し込まれます。

和枝は浣腸器が抜かれると、お尻をよじってイヤイヤをしています。浣腸器の嘴管を啜えようと、アーン！と鳴いて大人しくなり、漏らさぬように肛門を絞めて我慢しています。

剥き出しの陰唇の割れ目からは、透明の蜜がとろとろと流れ出て肛門を濡らしました。

「ああん！ あなた！ もうダメ！ お腹いっぱいですッ！ もう入りません！」

主人は150CCの浣腸液を3回に分けて注腸して浣腸器を抜き、脱脂綿で肛門を抑えました。

和枝は苦しそうにお尻を振って我慢しています。

和枝は浣腸が漏れそうになり、慌てて肛門を閉めると、オシッコがピツ！と漏れてしまいます。

「アアッ！ 恥ずかしい！ もうダメ！ あなた！ もう許してください！」

オシッコ！ 漏れるの！ お…かん…ちよ…う…も…ッ！」

和枝の濡れた肛門はピクピクと痙攣して浣腸液が滲み出てきます。

「もうダメッ！ アアッ！ 出ちゃうわッ！」

主人は、和江の肛門の状態を見て差込便器をお尻にあてがい、肛門を抑えている手を離しました。

「和枝！ もう出しているよ！ 見てるからね！」

恥ずかしがついていないで、思い切つて便秘を全部出してしまいなさい！」

「ああッ！ ダメ！ 見ないでッ！ イヤーッ！」

ブビーツビ！ プウーツ！ ピーツ！ ビビーツツ

肛門が膨れて開き始め、浣腸液と共に恥ずかしい音が出て、固まった便がゆつくりと顔を出して”ポトツ”と便器に落ちると、和枝が息むたびに太い便がミチミツツと肛門から溢れ出では、便器に落ちていきます。

「アアン！ あなた！ 見ないでください！ 恥ずかしくつてツ！ アアン！ まだアツ！ オシッコツ」

排便が途切れると、思い出した様に遅れてオシッコが流れ出てきます。

「アツ！ イヤーン！ オシッコ出ちやう！ あなた！まだ出るのツ！ 恥ずかしいツ！」

そうして和枝は差込便器の中に5日分の便秘便を出したのです。

「和枝？ まだ出そう？ もういいの？ 全部出たの？」

主人は和枝が頷くのを見て、ティッシュで肛門の汚れを拭き取り、お尻から便器を外しました。

長かったお浣腸が終わり、和枝はほつとして主人を見ると、すぐ横には便器に出した山盛りの便が見え、主人は優しく微笑んでいます。

和枝は逃げ出したいと思うほどの恥ずかしさを感じたのです。

お浣腸が前戯になつて

「あなた！ ごめんなさい！ 汚いもの見せて！ 匂いも音も出して！ 本当に恥ずかしかったわ！」

「和枝！ お前！ 浣腸の時の恥ずかしがる姿が女らしくつて、とつても可愛かったよ！」

うんちいっぱい出してたし、お前もいっぱい濡らしていて、本当は気持ち良かったろう？」

和枝は、主人からお浣腸姿が可愛いと言われてしまい、恥ずかしさでいっぱいになって、今すぐにも太く怒張した主人のものを、ヌルヌルに濡れそぼった臍に入れられて、失神するまで虐めて欲しいと思いつながら、シャワーを浴びにお風呂場に向かったのです。